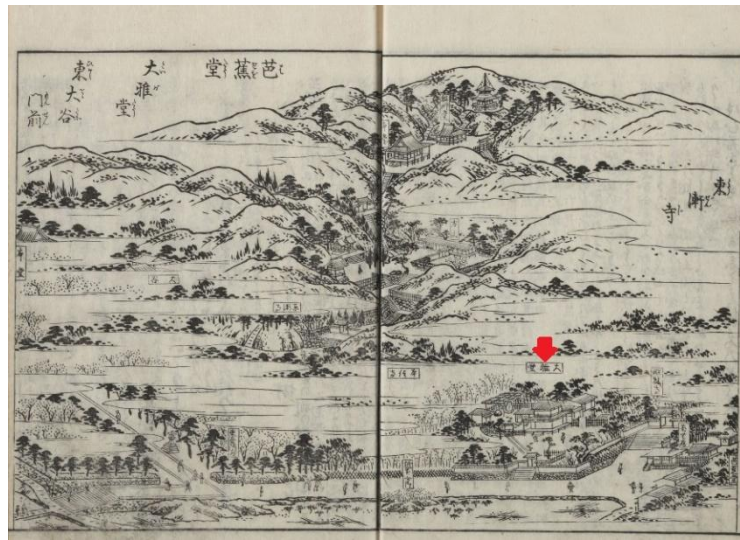


「大雅堂」から「池大雅美術館」



当館蔵『[拾遺都名所図会](#)』天明 7(1787)年刊から

東山の双林寺（隻林寺）境内にあった「大雅堂」は、日本の文人画を代表する巨匠の一人池大雅（1723～1776）の没後、彼の遺墨、遺品を後世に伝えるために門人によって建立されました。これは今で言えば「大雅記念館」とでも言える様相を呈し、大雅の暮らしぶりと創作活動を伝えるものでした。残念ながら明治 38 年廃趾、現在は円山公園の一部となり、その跡地である音楽堂西南の一隅に石碑があるのみとなっています。



池大雅は4歳の時に父を亡くしましたが、幼い頃から書画に優れた才能を示し、萬福寺で披露した書の見事さに神童と呼ばれました。柳沢淇園の教えを受けて中国南宗画を学び、独特の画法を確立しました。例えば、筆の代わりに指を用いて描く「指頭画」など自由闊達な彼の書画は同時代の知識人からも絶大な評価を受けています。また、妻の池玉瀾も画家として活躍し、夫婦仲がよく、彼の人柄は多くの人に愛されました。

「大雅堂」は無くなりましたが、その理念を受け継いだ佐々木米行氏によって池大雅美術館が京都市西京区に創設されました。しかし2015年閉館となり、その所蔵資料は一括して京都府（京都府京都文化博物館管理）で受け継いでいくこととなりました。大雅の代表作の一つ「[柳下童子図屏風](#)」（重要文化財）をはじめ、所用品、大雅堂建設に関する重要な資料など残りし日の大雅堂を彷彿とさせる資料が池大雅美術館コレクションとして保存されています。

* コレクションの一覧については当HP 資料検索「[京文博管理資料 美術・工芸目録](#)」の検索画面で“池大雅美術館コレクション”と検索すると一覧が表示されます。コレクションについての問い合わせは[京都文化博物館](#)にご連絡下さい。

参考文献 『[霊在りて精を遺す](#) 池大雅美術館作品集』（佐々木もと子 2014年刊）

* 池大雅美術館にあった作品が掲載されています。

（2017年12月11日公開）